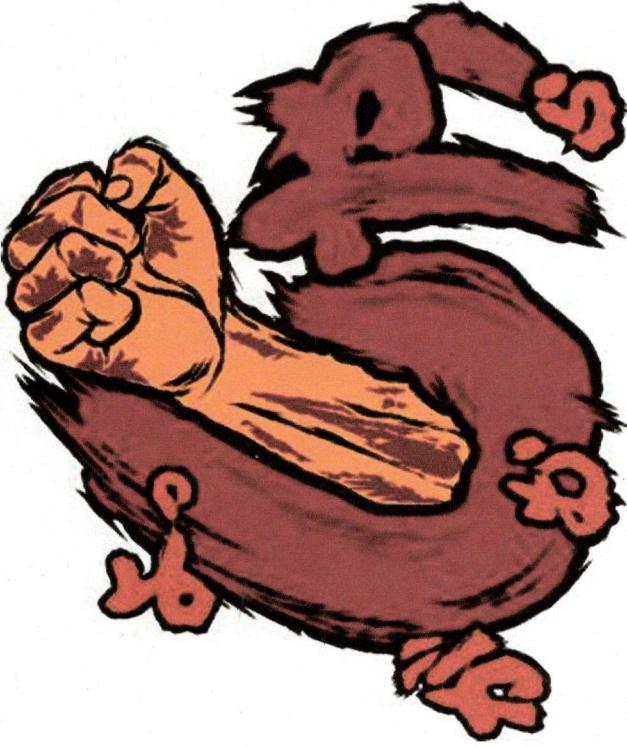


◎ 月一報恩講：毎月28日 | 3時30分～15時

2023年12月冬 超覚寺報 第60号 【ハーフ屈たより】



月ごとのテーマ
1/28(木) 「お正月は、めでたいか」
1/26(金) 「恋だの 愛だの」

2/28(水) (雑談しながら)仏具のお磨き
3/28(木) 「コロナ禍の中で思ったこと」

◎ 死別の分かちあいの集い： | 13時～15時

・夫を亡くした方： 毎月第1土曜日 (1/6・2/3・3/2・4/6・5/4)
・自死遺族の方： 每月最終土曜日 (12/23・1/27・2/24・3/30)

当事者の方々の分かちあいの集いです。たまに住職も参加します。

◎ 体操教室・整体教室・ヨガ教室・よろず相談会

毎月開催していますが、日にちを固定していないので、境内墓地側の掲示板をご覧いただきながら、お寺までお問い合わせください。

◇ 寺院護持費（墓地管理費）について

遠方の方は、お振込もどうぞご利用ください。

【ゆうちょ銀行 15190-55770601】

他金融機関からゆうちょ銀行へ振り込まれる際は、
次のように入力してください。

【店名】五一ハ(読み ゴイチハチ)

【店番】518(普通預金) 5577060

◇ 報告・連絡・“僧”談

新井監督1年目の2023年は春先の下馬評を覆してのリーグ2位！
優勝の期待大の2024年は、マツダスタジアムのチケット争奪戦は必ず
ですね。例年通り団体予約をしますが、個別にチケットを希望される方
は、一緒に申し込みますので事前に申し出ください。
発行人：超覚寺住職 釈隆恩(和田隆彦) (*— - —)人 i~ 合掌

淨土真宗(真宗大谷派・東本願寺)



RIN-O-ZAN OKU-ZEI-IN CHO-KAKU-JI
〔since 1619, 元和5〕

〒730-0013 広島県広島市中区ハーフ堀 5-2
Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113

Mail : wada@namuamidabutsu.com
HP : <http://www.namuamidabutsu.com>

<http://mytera.jp/tera/48chokakuji>

超覚寺 冬 の 法要 の お知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、ありがとうございます。
さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますので、
ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。<（—）>

◎ 2024年 修正会法要

1月1日(月・祝) 6時～、8時～、10時～、12時～、
一年の計は元旦にあり。「今年もお念仏の道を歩ませていただきます」と
阿弥陀さまにご挨拶申し上げましましう。住職が約10分ほど勤行・法話を
勤めます。これらの時間帯以外も元日は本堂を開放しておりますので、
新年のお墓参りの際に、どうぞ本堂までお参りください。

門松や冥土の旅の一里塚
めでたくもありめでたくもなし(一休宗純)

◎ 2024年 春季彼岸会法要

3月17日(日) 13時30分～ 勤行：住職
14時～(休憩)～15時30分頃

高座説教：祖父江佳乃師(名古屋市有隣寺住職)
今年も祖父江佳乃師にご出講いただきます。昨年はコロナ禍でも大勢
がお参りされました。コロナ禍が落ち着いた今年はお参りも増えそうです。

☆ お仏壇(お内仏)考

右記の『額装御本尊』は毎年紹介していますが、ご入用の方は何軒もあります。生活様式や間取りの事情、施設に引っ越すなどで昔ながらのお仏壇を置けない方がこちらに切り替えられます。自立型で壁掛けもできるので、それならと新たに設ける方もいらっしゃいます。関心のある方は、どうぞ超覚寺までお気軽にお問い合わせください。

◎ 月一報恩講：毎月28日 13時30分～15時

これまで毎月末に様々な日程や形式で勉強会を設けていましたが、より多くの方に参加いただけないかと下記のように変更します。
・開催日は28日に固定します。(土日なら直前の金曜日に変更)
・親鸞聖人の御命日にちなみ、「月一報恩講」と改名します。

・毎月ごとにテーマを設けます。

- 1/28(木) 「お正月は、めでたいか」
- 1/26(金) 「恋だの 愛だの」
- 2/28(水) (雑談しながら)仏具のお磨き
- 3/28(木) 「コロナ禍の中で思ったこと」
- 4/26(金) 「人生の目的は何か」
- 5/28(火) 「安樂死と不妊治療」

・哲学対話の8つのルールを導入して、話しやすい雰囲気にします。

- ① 何を言ってもいい。
- ② 人の言うことに對して否定的な態度をとらない。
- ③ お互いに問い合わせるだけでもいい。
- ④ 発言せず、ただ聞いているだけでもいい。
- ⑤ 知識ではなく、自分の経験にそくして話す。
- ⑥ 話がまとまらなくてもいい。
- ⑦ 意見が変わってもいい。
- ⑧ 分からなくなっていてもいい。



これまで、その場でテーマを出したり、フリーテーマにしたりしていましたが、事前にテーマをお知らせする方が参加しやすいのではないかと考へ、このようなスタイルに変更します。「〇〇〇のテーマで雑談したい」というご希望があれば受け付たいと思いますので、どうぞ遠慮せずにお申しください。

◇ “寺”後報告 ・11月3日『超覚寺報恩講』



今回は31名のお参りでした。初めて来られた方が「他のお寺に比べて、いろいろな世代がお参りしている」と驚いていました。大西先生には勤行本に載っている仏教讀歌をリクエストしましたが、プロの声楽家が歌うと仏教讀歌がどれほど莊嚴になるのか、改めて見直すことができました。阿弥陀如来に向かって歌う意味も新たな学びでした。大西先生は、上智大学グリーフケア研究所認定臨床傾聴士の資格もお持ちなので、午後はグリーフケアのことを対談したいと考えていましたが、周囲でインフレエンザが流行っているので急遽中止にし、お斎は折り詰めにしてお持ち帰りいただきました。それも楽しみにしておられた参詣者も居られたので申し訳ないのことでした。



- ・12月9日『終活セミナー』
コロナ禍も落ち着いたので、
5年ぶりに岡村行政書士をお招きしました。

私も実父が亡くなる前後に岡村先生に相談したので、不要な徒労をせずに済みました。自分や家族が亡くなることの不安や畏れは、仏教を聞くことで明らかになりますが、遺された家族の負担や苦労は、自分が準備をしておけば減らせるものです。今回受講して、自分が死んだ後までも家族には余計な心配を掛けたくない改めて思いました。

◎ 2024(令和6)年の法要日程予定

- ・1月1日(月・祝) 修正会 6時・8時・10時・12時
- ・3月17日(日) 春季彼岸会 13時30分
- ・8月6日(火)・9日(金) 広島・長崎原爆殉難者追弔会
- ・8月14~16日(水木金) 孟蘭盆会 10時
- ・9月21日(土) 秋季彼岸会 13時30分
- ・10月某日 第4回 ハ丁堀落語会
- ・11月16日(土) 報恩講 13時30分
- ・12月14日(土) 終活セミナー 13時30分

◇ 2024(令和6)年の御法事をご確認ください。

- ・2023(令和5)年: 1周忌 2022(令和4)年: 3回忌
- ・2018(平成30)年: 7回忌 2012(平成24)年: 13回忌
- ・2008(平成20)年: 17回忌 2000(平成12)年: 25回忌
- ・1992(平成4)年: 33回忌 1975(昭和50)年: 50回忌

お勤めはお寺でも御自宅でも大丈夫です。希望日時をお早めに御連絡ください。念のため、境内墓地通路脇の案内板にも該当者名を掲示しております。

☆ 2024(令和6)年に慶事のある方へ

成人式を迎える方、結婚される方、出産される方へ、東本願寺からのお祝いとして、記念品(お念珠)を授与いたします。この慶事を機縁として、お仏壇や本堂の仏様へのお参りや、ご先祖さまへのお墓参りが報恩謝徳であること、お念珠を把持することの大切さ等をお伝えしたいと思います。どうぞ、いつでもお申しください。

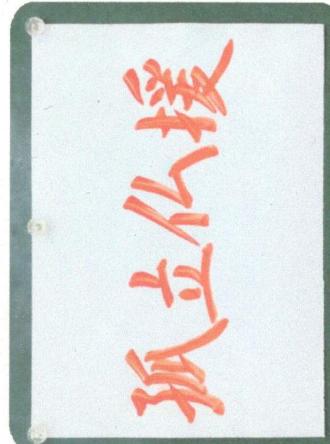
☆お寺の掲示板大賞2023

仏教伝道協会主催のこのイベントも6年目になります。超覚寺は3枚が受賞しました。今や全国のお寺の掲示板がインターネットで見られます。ハ丁堀は人通りが多いですが、それ以上にSNSで見る方が増えています。

皆さんも「#超覚寺」で検索し、ご笑覧ください。

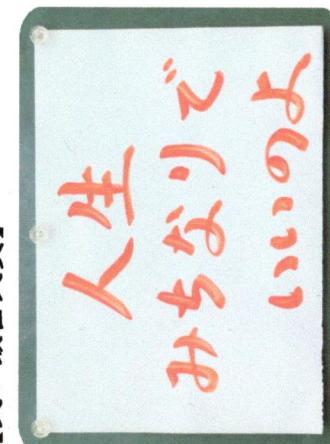
【仏教伝道協会賞】

【講評】現代社会の中で「孤独」が大きな問題になっています。「孤立無援」とは、「頼るものがなく、ひとりぼっちで助けのないさま」を表したものですが、私たちは決してひとりではありません。仏さまは常にそばで温かく見守ってくださっているのです。



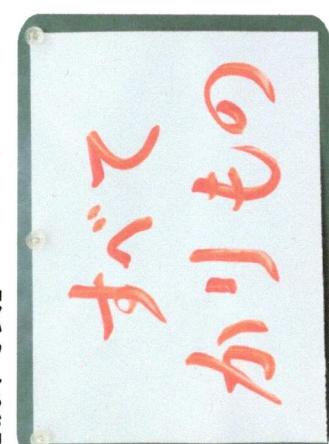
【笑い飯哲夫賞】

【講評】人と違うことをしたい、と思う方がちですが、実は人と同じことをする方が難しいんです。先人たちが歩いた「みち」はめちゃくちゃ複雑だけど照らされてもいいで、だからそこを歩ける。最高のカンペが「みちなり」なんだと思っています。



【彼岸寺賞】

【講評】超覚寺さんは「いざれかえすもの」とコメントをつけておられますので、「かりもの」とは「借り物」であり、「私のもの」という執着から離れるための法語と味わえます。しかし、「仮もの」と読むと、また違ったとらえ方ができそうな、妙がある言葉です。



☆ 東京ブギウギと鈴木大拙

(大阪市「淨満寺だよりNo.360」加筆転載)
NHKの連続テレビ小説「ブギウギ」のモデル、笠置シズ子の「東京ブギウギ」。作詞したのが、仏教学者として有名な鈴木大拙(すずきだいせつ)師の養子・勝(まさる)氏。この勝少年、真宗大谷派の小学校に通うが、なかなかのヤンチャで幾度も大拙は学校に呼び出されている。中学になつて寮に寄宿させたが落ち着かず、大拙は友人に頼んで夏休みは京都から遠い富山で過ごさせたり、素行の悪さに手を焼いたので高野山中学校に転向させたりしている。大拙の日記には、暴力事件を起こしたので中学校まで飛んで行き、被害者に賠償金を支払ったとも。

大学生の時は日本学生会議のメンバーに2度選ばれ、それなりの足跡を残しているが、やがて真珠湾攻撃が起き、戦争に。その翌年、勝は上海の通信社に勤めていたが、そこで作曲家の服部良一と出会う。しかし、この後、敗戦となり日本に引き揚げた。

服部は、焼け野原となった日本を元気づける為、戦前から既に有名だった笠置シズ子の再起の場を作ろうと思い、心がウキウキするような楽しい歌をどこを考える。メロディーはすぐに出来たが、新しいリズムには既成観念の無い新しい作詞家が良いだろうと、旧知の勝に依頼した。意味を持つ詩というよりは、調子の良い韻語が欲しいと伝えたという。そして、服部のアドバイスも加味して共同作業で、作曲・服部良一、作詞・鈴木勝として「東京ブギウギ」は出来上がった。レコードイングには、スタジオ近くの進駐軍の兵士らも集まって大いに盛り上がりらしい。

鈴木大拙は禪を世界に知らしめ、東洋・西洋の文化が相互に分かれ合うことを願っていた。アメリカの大学での講義もその為であった。『東京ブギウギと鈴木大拙』著者の山田遷治氏は「幾万の言葉を並べた大拙とは対照的に、勝はあっさりと【世界は一つ】といい、ただ【君と踊ろよ】といふ。スタイルは全く違うが、親子のメッセージは響き合っている。しかし、大拙の禪と、勝の東京ブギウギのどちらのメッセージが人々の心に届き、記憶されたか、この点では大拙は勝の足元にも及ばない」と。勝はその後も色々やからしくして、大拙の期待を裏切り続けたが、「お前を悪く思っては居らぬ。わしはお前の父親だと思つて居る、愛情を込めて」との言葉が残っている。